

悠久

第 32 号



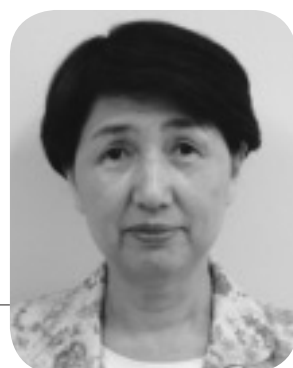
遼寧省瀋陽市 北陵(昭陵) 撮影：岡田浩明

本号の内容

① 未来へ	岡山大学教育学部 特任教授 曾田 佳代子
② 知る・深める中国 広州便り	笠岡市立金浦中学校 教諭 藤井 小百合
③ 岡山市日中友好協会の活動について	岡山市日中友好協会 理事 黒住 昭子
④ 大連教育事情調査報告	県立倉敷南高等学校 元校長 山根 健
⑤ 事務局よりお知らせ	

July
2010

未来へ



岡山大学教育学部 特任教授

曾田 佳代子

岡山から上海を初めて訪れた時の感動を、十年経った今でも鮮明に覚えています。女性の視点を通して、上海と岡山の教育・福祉事情を各分野の代表が学び合う目的で創設された「岡山市・上海市日中女性フォーラム」のコーディネーター役での参加でした。

訪問させていただいた福祉施設や学校では、その素晴らしい取り組みや、子どもたちの真摯で意欲的な授業態度にとっても感動しましたが、それにも増して印象的だったのは、福祉局や教育局の幹部女性の自信と誇りに満ち溢れた、圧倒されるほどの存在感でした。

岡山から参加した人は、それぞれの分野の指導的な立場の方たちであり、年齢的にも熟年の域に達していました。それでも今まで出会ったことがないほどパワフルな中国の女性たちに感化された感じで、熱気に帯びたフォーラムとなりました。

その後、数年間相互交流を重ねる中で、両市の行政施策に多くの共通点や課題を見い出すとともに、仕事にかける意気込みだけでなく、プライベートな話題についても親しく意見交換ができ、彼女たちのことはその後よく話題に上りました。

人との素晴らしい出会いは、人生の経験豊富な人たちにとても大きな影響を与えるのですから、若い青少年期の出会いや体験は、その後の人生のどんな節目になるのか図りしれないものがあります。

米国では、クリントン元大統領が十六歳の高校生の夏、官邸で当時のケネディ大統領と握手をし、その時の興奮が政治家を目指すきっかけになったと「ホワイトハウス運命の握手」として語り継がれています。

昨年の日中教育交流講演会で、江草安彦名誉会長さんは、「平和は子どもが交流することからはじまる」と話されました。一人一人の出会いが繋がり、いつのまにかみんなが繋がり、国と国の未来の平和に繋がっていくと考えると嬉しくなります。

これから人格が形成されようとしている若い世代の人たちに、本物の体験や出会いを提供することは、彼らの夢のある人生を実現する一助になるとともに、未来に向けて国と国の架け橋になる種を蒔くことになるかと確信しています。多くの方々の協力をいただきながらすすめている日中青年交流が、未来へつながる確かな営みになることを願っています。



知る・深める中国

広州便り

笠岡市立金浦中学校

教諭 藤 井 小百合



中央遠く、現時点で世界最高（610m）のテレビ観光塔

広州市は、広東省の省都で、人口約一〇〇〇万人の大都市です。中国南部沿岸部に位置し、香港、マカオまで、新幹線あるいは高速バスを利用して一時間半程度の距離にあります。歴史的には羊城、穗城という愛称をもち、紀元前三〇〇年頃、羊に乗った五人の仙人が広州の町に稲穂をもたらした、という故事によります。広州の名前が表舞台に頻繁に登場するのは中国近代史。ひとつは国際貿易港の顔、ひとつは中国近代革命史の顔をもっていました。現在は、トヨタ（广汽トヨタ）、ホンダ（广汽ホンダ）、日産（東風日産）の日系の三大自動車メーカーが集結しています。その一方、電脳城（パソコン関係）、玩具城、眼鏡城、靴城、家具市場、食器市場というように、

通りであればその通りの両サイド全部、建物であればビル全体に目が回りそうなくらい小売店がひしめきあっており、土地に慣れてくれば中国独特の商業風景が広がる買い物天国でもあります。五月、十月の年二回、交易会が開催され世界中のバイヤーが集まり、世界のマーケット市場となります。その頃はタクシーがつかまらず、通勤時も道路が渋滞する時期でもあります。二〇〇八年の北京オリンピック、二〇一〇年五月の上海万博に続いて、十一月開幕のアジア大会の開催地としてさらに急ピッチで都市整備が進められています。二〇〇九年十二月には地下鉄五号線が開通して便利度を増し、バスも中央専用道を運行するBRTシステムが整えられ、大通りに沿った建物は、壁面のお色直しを施すなど、装いを整えています。



広州日本人学校

二〇〇七年から二〇一〇年三月まで、在外教育施設、広州日本人学校（Japanese School of Guangzhou）に勤務しました。広州日本人学校の中学部校舎の中庭には、亜熱帯の氣候を象徴するような植樹五年程のバナナの木があります。大きな葉っぱが目と和ませるとともに、年に何回も果実し、野性味のある味で楽しませてくれました。例年、十一月初旬の運動会は半そでハーフパンツで行います。広州日本人学校は現在、小学部三百人余り、中学部七十人前後で、全校児童生徒四百人前後を推移しています。小学部は各学年二クラス、中学部は各学年一クラスの編成で、中一は三十人余り、中二は二十人強、中三も二十人弱と次第に少なくなはなるものの、中三まで在籍し海外からの受験を経て日本の高等学校に進学する生徒が着実に増加してい



中学部校舎中庭

ました。小中併設校として、縦割り集会、小五からの委員会活動、四色対抗の縦割り運動会、学習発表会など、小中合同で行います。小学生の元気で一生懸命なところと、その小学生に慕われてよき上級生として素直にリーダーシップを発揮し活躍できる中学生と、相互に成長できる土壌が校風として培われています。一週間の終わりの金曜日午後三時半過ぎ、全職員が駐車場のマンゴーの木々の下で、手を振って子どもたちを見送ります。発車の笛とともに、一斉にバスがエンジンをかける。車窓から素直に手を振る小学生と、やや照れた表情の中学生と、中には、小さな人形をたくさん窓に掲げ、見送りに答える女の子もいました。広州日本人学校の思い出の中でもとりわけみんなの心に残る風景の一つでした。



児童生徒会による集会風景

教育課程は、日本の小、中学校の新教育課程に準じますが、小学部は、総合的な学習の時間・外国語会話として、全学年、中国語会話・英会話に週に一時分ずつ設けています。中学部は中国語会話と総合的な学習の時間を一時間、自分たちが今いる中国をテーマに取り上げて学習します。関連する行事では、中一は「中国の国父」と呼ばれる孫文の故居がある中山市に五月に宿泊研修を行い、調べ学習と集団・仲間作りの活動を行います。中二は九月下旬に北京を三泊四日で堪能し、中三は日系企業の協力を得て、職場体験を行います。平成二十一年度は「知る・深める中国」のテーマのもと、日本と中国、中国広州における援助とボランティアを柱に学習を深めました。日本政府による「草の根・人間の安全保障無償資金協力」の一環で、



中山市 孫文故居

老朽化した中国の小学校の建て替えの援助の対象先として視察した馬崗小学校は広州市から高速道路を使つて北上、四時間の行程の農村部の学校です。八月下旬、夏休み中でしたが、思いもかけず小学校の先生方が集まり、交流会を開いての歓迎を受けました。中国は先生による有料の補習を行うということで、質問を向けたところ、一クラス六十人余りのその六割の子どもは保護者が出稼ぎに出ており、保護者と話をすることもままならないという状況を聞きましました。発展する中国沿岸部と農村部の格差の一端を学校現場から伺い知りました。その中で、中国のハンセン病回復村でNGO「家・JIA」という組織作りを行い、活動を展開する若い日本人、原田燎太郎氏の講演を聞き、生徒は深い感銘を受けたようでした。何が自分にできるか、自分が動くことを考え始めました。小学部が交流する広州市内の東風東路小



新築の日中教学楼とともに使用される馬崗小学校旧校舎内

学校の小五の英語の授業では、同時期の日本の中一の学習内容の少し先を学習していました。中国の五大学の一つである中山大学付属中学校の授業参観では、一時間四十分の授業枠の中で基本的には全教科、パソコン・プロジェクト提示の展開で授業が進められていました。意欲的な中国の生徒の学習の様子に教員として触発されるものがありました。

三年間の広州生活の中で、中国の地で生活する家族の絆の深まりを感じた一年目。そして、急速に発展する中国の勢いを身近に感じながら、日本と中国を軽やかに行き来し、広州の地でのびやかに自己実現を図ろうとする子どもたちの成長を感じた三年目。無事勤務を終えることのできた深い感謝とともに場所は違えど、今後も子ども達の健やかな成長に思いをはせ、教育活動に微力を尽くしていきたいと思っています。



中山大学付属中学校の語文（国語）の授業風景

「以民促官」

(民の力で政府を促す)

岡山市日中友好協会の活動について

岡山市日中友好協会

理事 黒住 昭子

【はじめに】

来年、岡山市日中友好協会は設立三十周年を迎える。内山完造氏や岡崎嘉平太氏をはじめとする多くの先人方々が、早くから中国との友好関係に寄与してこられた思いを引き継ぎ、一貫して日本と中国の友好交流活動に取り組んできた積み重ねは大きな意味を持つと思う。今日、社会情勢が刻々と変化し、日本と中国の関係はまた新たな局面を迎え、新たな視点での交流が必要とされると考える。

【役に立つ協会を目指して】

今年の本会総会で、私たちは「役に立つ協会」を目指そうという目標を掲げた。社会の中で何らかの貢献ができることが協会の存在意義を高める。それを広く浸透させていくことが今後の協会の発展、ひいては今後益々重視しなくてはならない、日本と中国の関係を深めていくことにつながるのではないだろうか。

その中で特に力を入れているのが、中国人留学生支援と、中国に対する理解を促すための講演会活動である。

協会では昨年「中国人留学生支援センター」を協会内にたちあげた。留学生に何らかの、自分たちだけでは解決し得ない問題が発生したときに、協会メンバーのネットワークを

通じ、必要に応じて専門家の協力も得ながら、サポートしていくというものである。これは、岡山県内でも年々増加の一途をたどる留学生に、事故などの重大な事態が降りかかることが発生している現実があるためだ。現在、岡山県中国人留学生学友会（以下、学友会）と連携して実施している。

私が最初に関わったのは、三年前倉敷の大学で学んでいた留学生がアルバイト帰りにトラックに轢かれ、意識不明のまま植物状態になってしまった河北省出身の留学生支援。事故後すぐに中国から姉が来日し、病院に寝泊りして付き添ったのだが、日本語も全くわからず先の見通しもまるで立たない状態で、日々の生活から事故後の損害保険の手続き、滞在ビザの問題、いつどのようにして帰国するかなど、問題が山積みだった。

それをひとつひとつ看護する姉と一緒に考え、他の支援団体や中国在大阪総領事館とも連携しながら乗り越え、一年半後に無事帰国を果たした。帰国には、病院の看護師とともに付き添い北京の病院まで見届けた。残念ながら本人は今も意識が戻らないままだが、家族が丸となった看護し、命をつないでいる。

今も継続中の支援では、やはり交通事故に遭い、後遺症で精神障害を抱えている大学研究員の方がおられ



交通事故で植物人間となった留学生を北京へお見送り（北京空港）

る。この場合も事後の保険問題、ビザの問題、帰国後の不安など、入院中の本人の力だけでは解決できないことが多くあり、協会が身元保証人となり弁護士、医師、中国にいる家族などとの間にたつてコーディネーター役をしながら、無事に帰国して新たな生活をスタートできるよう応援しているところである。

【骨髓移植支援募金活動】

今年に入って、黒竜江省出身の元留学生程さんへの骨髓移植募金活動を展開した。新聞でも大きく報道されたのでご存じの方もおられるかもしれない。これは、本人が病院内のつばやきノートのようなものへの書き込みを見た移植ボランティアの方が、総領事館や私たちの協会へ支援要請をしてこられたことから広がっ



骨髄移植手術支援の程さん支援募金を贈呈

た。支援の輪が広がり、移植手術が行われた五月十一日までに百五十万円を届けることができた。現在、骨髄液が生着し、白血球が増えているがまだ予断を許さない状況が続いている。

・・・・・・

この他、車との接触事故や、アルバイト先とのトラブルなど、日常の問題は様々である。生活習慣や法律、社会システムが違う異国でのこうしたトラブルに直面すると、とまどいと不安が先にたつものだが、協会では学会と協同して、必要があればいつでも相談にのれる態勢を心がけている。

日本で学ぶことを決意し、岡山を選んで来てくれた留学生が、日本という国や人々をよく理解し、いずれ日中両国の架け橋となってくれるよ

う、心から願っている。これから真の「多文化共生社会」を目指さすためにも、留学生たちが安心して住み、学べる岡山にしていきたいと思う。

【中国を知る講演会開催】

もうひとつ、これからしっかり力を入れていきたいと考えているのが、中国という国や文化を広く伝えていく活動である。「近くて遠い国」と、中国を表現するようになって久しい。しかし、古来中国は日本にとって一番身近な学べき存在であった。それが近・現代の両国の歴史の中で、いつのまにか「遠い国」になってしまったのは残念なことである。さて、これからの時代。日本にとって中国は欠くことのできないパートナーであることに異論を唱える人はいないであろう。政治、経済、文化、どれをとっても中国の存在が日本に与える影響は大きい。しかしながら、その現実とはうらはらに、日本人の意識はまだ近代史の中から抜け出すことができず、中国のことを知らない、知ろうとしない人々が多いのも事実である。

昨年十一月、今年三月と、縁あって東京からお茶の水女子大名誉教授の中山時子先生をお招きし、中国、また中国語を知り学ぶための講座を開いた。中山先生は六十余年にわたる中国の言語、文化を研究しておられる第一人者として名高い。先生は

「知らない」ことの弊害を強く警告される。まず、相手をよく知らないことには、本当の交流はできない。政治やビジネスも然り。これからの日本人は中国という国、人々としつかりと向き合って手を組んでいかなければ未来はないとまで断言され、その基本となるのが「言葉」であると熱く語られた。この二度にわたる講座は大きな反響を呼び、聞きに来られた方はそれぞれに思いを新たにされたことと思う。協会としても、これからのひとつの役割を提言された思いであった。「中国をまず知ること」。今後の日中両国の友好交流を発展させるために、様々な側面から、多くの方に関心をもち、学んでいただくことが大きな力になることを確信している。正しく歴史、文化、社会を理解し、それを背景に持つ中国の人々の意識や感覚を知る。また中国語を正しく学習することで、きちんとしたコミュニケーションがとれるようになる。これらの中山先生の教えをベースに、これからも継続して公開講座を開催する予定である。市民の皆さんに中国を身近に感じ知っていただき、日本と中国のよりよい関係を築いていくことを後押ししていきたい。

【文化・医療交流活動】

この他、岡山市日中友好協会では、岡山市の友好都市である洛陽市との

交流を設立当初から重ねており、植樹活動や農村部の子供たちへの支援、文化交流なども活発に行っている。最近では、全国で活躍中の岡山出身二十五弦箏奏者「心花」さんと洛陽師範大学音楽学部の子生さんたちによる合同演奏会を洛陽で開催するという新しい試みも実現し、今後の音楽交流が楽しみである。また、先日は洛陽市から病院の院長先生方が岡山の医療視察に来られたが、協会ではそのコーディネートを取り仕切ると共に、協会メンバーの皆さんと歓迎会を開いて賑やかなひと時を持ち、大いに盛り上がった。

このように、民間レベルで顔の見える、心の通う交流活動を積み重ねることの大切さも、私たちは実感している。ぜひ、多くの方々に日本と中国のこれからについて考えていただき、私たちの活動にもお気軽にご参加いただきたいと思う。また、とりわけ日本の若い世代の人たちに、大きな期待を寄せたいものである。

※協会活動の問い合わせ先

岡山市北区錦町五一十五

南田辺ビル二階

電話：〇六六―二三五―五〇六八

ホームページ：

<http://www.oka-rizhongyouxie.jp/>

メール：oknityu@yahoo.co.jp



大連教育事情調査報告

県立倉敷南高等学校

元校長 山 根 健



大連第一中学石傑校長(左二)と記念撮影

岡山県日中教育交流協議会は、さる五月十八日より二十二日まで、この夏岡山県の高校生と交流する、大連市の第一中学等を訪問し、教育事情調査及び事前協議を行った。調査団は、岡田浩明会長、松井三平事務局長及び筆者の三人である。以下その概要を報告する。

大連市第一中学等訪問

大連市第一中学は市街地のほぼ中心部に位置し、学校の周囲にある建設中のマンション頂上部でクレーンが忙しく動いていた。千四百名の生徒が在籍し、外国との交流を特色とする遼寧省の重点中学に指定されて

いる。それだけに、石傑校長先生は今回の交流が実現したことを大変喜んでおられた。各教室はジャージ姿の生徒が五十名で窮屈そうだが、生徒数は、今後ドンドン減少し数年先にはクラス四十名になるそうだ。学校では視察と共に、交流の最後の詰めを行った。

次に行政の窓口である大連市外事弁公室を訪問した。曲世成処長は、最近では中国から日本へ訪問しても日本からの訪問が少ないとのこと、今回の相互訪問に対しては大きな成果を期待されていた。

(参考)

中国の学校は九月入学で七月までが一年とされている。教育制度は、初等教育・中等教育(初級中学段階と高級中学段階)・高等教育に分かれ、そのうち、義務教育は初等教育と中等教育の初級中学段階までの九年間である。日本に当てはめると、初等教育は小学校、中等教育のうち初級中学は中学校、高級中学は高等学校、高等教育は大学に相当する。ただし、名称は大連市第一中学のように「高級」をつけないでも日本の高校と同じ場合もある。

活気に満ちた大連市



大連市第一中学

大連市の様子を少し紹介する。大連市は遼東半島の先端部に位置する都市圏人口三百五十万人、市区人口二百一十一万人を擁する港町である。仙台市とほぼ同じ緯度にあり、気温は岡山とそう違わない。中国東北部の内陸地方への玄関口になっており、造船業を中心とする工業が盛んであるが、近年ハイテク産業およびソフトウェア人材育成への重点投資が行われている。広州や上海等の南部に比べ遅れを解消すべく国策として開発が進められており、都心の工場や大学を郊外に移転した跡に高



大連第一中学で交流の協議

層マンションを新築するとともに従来のアパートも改築したり、地下鉄の建設工事も行われており街中が工事中の様相であった。

高速道路網が拡大し、内陸の瀋陽と大連の新幹線も間もなく完成する。空港も需要の増大と騒音対策のため近いうちに拡張移転するそうで、とにかく元気のよい活気に満ちた大都市である。旅順に至る道路に面する赤土の丘陵地を切り開いた企業群や大学の規模には目を奪われた。日本の企業の看板も目についた。

その中の大連外語学院（大学）日本語学院（学部）を訪問し、宮偉副学院長に学内を案内してもらった。

中国最大の日本語教育を実施する大学で、広大なキャンパスは開発増築中で、学生寮が住宅団地のごとく並んでいた。また、各教室には日本語で目標を掲げたり本格的な茶室も設置したりして、日本語及び日本文化に対する勉強への意気込みを感じた。日本の有名大学へも多くの留学生を送り出しているそうである。

大連市では、自動車は月一万台も増加しており渋滞が深刻だそうだが、自転車はほとんど見かけなかった。自動車は右側通行となっており混雑と習慣の違いで道路横断も要注意である。ところが、現地の人は車の間を縫うようにしかも堂々と横断するのには驚いた。都心にはいくつかの日本建築が残っている。大連駅は上野駅にそっくりで、日本と中国の歴史的関係の一面を物語っている。訪問前には関係史について勉強しておきたいものだ。大連に限らず外国の水道水の水质は日本と違うので生水は絶対飲まないことだ。つくづく日本の水事情が有り難く思えたこの調査旅行であった。

協議会事務局からのお知らせ

●平成22年度総会開かれる。

5月15日（土曜日）午後1時より岡山県生涯学習センターにて、本年度総会が開催され、21年度活動報告並びに収支報告、監査報告の後、役員改選が提案され可決承認された。新役員は下記の通り。役員一新のもと、22年度活動方針案と収支予算案が提案され承認された。

岡山県日中教育交流協議会 平成22年度 役員

役 職	氏 名	所 属	役 職	氏 名	所 属
参 与	中 島 博	岡山県経済団体連絡協議会 座長	理 事	今 井 康 好	岡山県教育庁指導課 課長
	岡 崎 彬	岡山県商工会議所連合会 会長		岡 頌 敏	岡山県町村教育長会 代表
	加 計 孝太郎	学校法人加計学園 理事長		藤 谷 幸 弘	岡山県PTA連合会 会長
	片 岡 和 男	岡山市日中友好協会 会長		中 村 有 作	岡山県高等学校PTA連合会 会長
顧 問	末 光 茂	社会福祉法人旭川荘 理事長	(事務局長)	平 井 信 雄	岡山県高等学校校長協会 会長
	門 野 八洲雄	岡山県教育委員会 教育長		岡 部 初 江	岡山県特別支援学校長会 会長
名譽会長	福 武 總一郎	財団法人福武教育文化振興財団 理事長		岩 堂 秀 明	岡山県中学校長会 会長
	江 草 安 彦	川崎医療福祉大学 名譽学長		成 本 智 幸	岡山県小学校長会 会長
特別顧問	森 崎 岩之助	岡山県日中懇話会 会長		赤 堀 元 美	岡山県高等学校芸術文化連盟 会長
	黒 瀬 定 生	岡山県教育会 理事長		都 築 勉	岡山県国際理解教育研究会 会長
会 長	岡 田 浩 明	岡山県生涯学習センター 所長		板 野 美佐子	日中医療福祉研修センター 所長
副 会 長	吉 田 雄 平	岡山県都市教育長協議会 会長		大 川 泰 栄	岡山市教育委員会 事務局次長
	森 靖 喜	岡山県私学協会 会長		松 井 三 平	岡山市日中友好協会 理事
	曾 田 佳代子	岡山大学 特任教授		大 橋 典 晶	中国短期大学 准教授
			監 事	赤 松 康 弘	岡山県国際理解教育研究会 元会長

協議会事務局 〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階
 電話：086-225-5083 FAX：086-225-5041
http://www.oka-rizhongyouxie.jp/index_04.htm
 メール：oknittyu@yahoo.co.jp

担当：松井、平野

旭川荘厚生専門学院

●旭川キャンパス

児童福祉科

第一看護科 第二看護科

〒703-8560 岡山市北区祇園866

電話(086)275-0145

FAX(086)275-3283

●吉井川キャンパス

介護福祉科

福祉研究科

精神保健福祉科

〒704-8126 岡山市東区西大寺浜610

電話(086)944-6911

FAX(086)944-6922



岡山商科大学孔子学院

21世紀はアジアの時代、中国語を学ぶ絶好のチャンスです。

中国政府認定講師による中国語講座開催中!

☆HSK3級合格を目指す長期生コース

15週学習を通じて、HSK試験(中国語能力認定試験)3級合格を目指します!

※会社や団体への出張講座、キッズ(子供向けコース)も開講中!

・お問い合わせ/お申し込みは

岡山商科大学孔子学院 〒700-8601

岡山市北区津島京町2丁目10-1

TEL 086-252-0642(内線521) FAX 086-255-6947

<http://www.osu.ac.jp>

中国語講座日程(2010年前期)

クラス	曜 日
入 門 I	水曜(昼)・金曜(夜)
入 門 II	水曜(夜)
初 級 I	火曜(夜)・木曜(夜)
初 級 II	金曜(夜)
中 級 I	水曜(昼)・火曜(夜)
上 級 I	木曜(夜)

学校法人 中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院(現代生活学研究科)

中国短期大学

●総合生活学科

●保育学科

●英語コミュニケーション学科

●音楽科

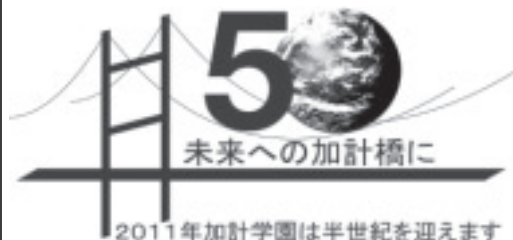
●情報ビジネス学科

●専攻科

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993

<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

岡山理科大学附属 中学校 中高一貫コース!



学校法人 加計学園 岡山理科大学附属中学校

〒700-0005 岡山市北区理大町1番1号

TEL.: (086) 256-8517 FAX.: (086) 256-8518

学校法人 加計学園 中高入試広報室

TEL.: (086) 256-8527 FAX.: (086) 256-8526

E-mail: kouho@ridaifu.ed.jp



(財)全国高等学校体育連盟協賛
インターハイ協賛

(財)日本中学校体育連盟推薦
(財)日本中学校体育連盟シボルマーク付

kankō E L L E MICHEL KLEIN
Sprinter Reebok SPALDING

OZAKI

尾崎商事株式会社 岡山営業所
〒701-0206 岡山県岡山市南区山田2316-28
TEL 086 (292) 8255
FAX 086 (292) 8266

尾崎商事株式会社 <http://ozaki.jp/>
本社 〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町15番1号 岡山リットシティビル5F
お客様相談室 0120-712983

赤ちゃんからお年寄りまで
一人ひとりの「よく生きる」のために。

Benesse®

事業領域

教育・生活・シニア・介護・語学・
グローバル人材教育

くわしくはホームページをご覧ください。
<http://www.benesse-hd.co.jp/>

株式会社ベネッセホールディングス
岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17
東京本部 〒206-0033 東京都多摩市落合1-34

Benesseは、ラテン語の「Bene(よく)」と「esse(生きる)」を一語にした造語です。



学校法人 志学学園／眼鏡技術専門学校

ワールド オプティカル カレッジ

メガネに関する「専門知識」と「最新技術」を修得した
スペシャリスト 眼鏡技術者を育成

第一眼鏡科：高校卒業以上 3年制
第二眼鏡科：専修学校・短期大学卒業以上 2年制
(学校見学は随時受付けております)

〒703-8282 岡山市中区平井6-6-11 TEL:086-272-5566 FAX:086-272-4422 0120-88-8233
<http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp

おかげさまで21周年！

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク！

- 岡山発着航空機の手配いたします！
中国東方航空で上海・大連・北京へ！
大韓航空で韓国ソウルへ、仁川空港経由で中国各地へ！
- お得なパッケージツアー（上海・大連・青島・など）
- 特徴あるこだわりのツアー
シルクロード、チベット、雲南、内蒙古など
皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい

アジアコム→ツアー

株式会社アジア・コミュニケーションズ
ASIA.COM 観光庁長官登録旅行業第1816号 ©JATA正会員 IATA公認
岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F (〒700-0902)
TEL (086) 231-0334 FAX (086) 225-5041
<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第32号

発行：平成22年7月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社